

# 赤い羽根共同募金配分金

平成19年3月16日  
30万円

## 聴力訓練に役立てて



### 画像ソフトや鉄道模型

松山のNPO製作  
宇和島学校へ贈る

難聴児の聴覚教育に役立ててもらおうと聴力トレーニングに使うパソコンソフトや鉄道模型が十三日、西予市宇和町卯之軒四丁目の宇和島学校（家藤武士枝校長、十八人）に贈られた。

同校では昨年四月から、興工業技術センターが開発中の聴力トレーニング機のモニタリングを実施。機器は乳幼児向けで、さまざまな音域の音を聞き取ってボタンを押すと動物などの画像が見られる仕組み。

難聴児が「聞く」とは何かを認識したり、意識的に音を聞いたりする訓練ができるほか、どの音域が聞こえにくいかを測定し、補聴器を調整するのにも役立つという。

ソフトなどを贈ったのは障害者へのパソコン講習や就労支援を行う松山市の特定非営利活動法人

（NPO法人）「まろしすてむ」（加藤賢幸理事長）。赤い羽根共同募金の助成を得て、トレーニング機と併用する画像ソフト、鉄道模型一式を製作した。

画像ソフトは本人や家族の写真を取り込みスライドショーが楽しめる。鉄道模型は会長の加藤さんが趣味を生かして製作したジオラマ付きで、子どもが正しくボタンを押した場合に運動して走り出す仕組み。

本体のトレーニング機が完成してはいないため、運用はまだ先だが、子どもらはさっそく列車の試運転を楽しんだ。

家藤校長は「最近、未就学児の教育相談も増えている。新しい機械で子どもたちが興味を持ってトレーニングできたら」と話している。

(G20070601-0012)